

## がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

### -高度がん医療開発を先導する専門家の養成-シンポジウム

#### 「県内の支持療法のレベルアップを目指して ～がんリハビリテーションを中心として～」開催報告

日時：平成26年11月22日（土）14:00～17:00

場所：信州大学医学部附属病院外来棟4階 大会議室

参加人数：医療従事者111名

内容（プログラム）：

シンポジウム14:00～16:00

「長野県内におけるリハビリテーションの現状と課題」

座長：小泉知展（信州大学医学部包括的がん治療学教室教授、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン信州大学コーディネーター）

井戸芳和（信州大学医学部附属病院 リハビリテーション部技師長）

①周術期のリハビリテーション

関崎研八（社会医療法人財団慈泉会相澤病院運動器リハセンター理学療法士）

②骨転移に対するリハビリテーションの現状と課題

高田明子（信州大学医学部附属病院リハビリテーション部作業療法士）

③がん患者の嚥下リハビリテーション ～手術療法と放射線療法2症例を比較から～

藤森貴久（社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 心臓病リハセンター 言語聴覚士）

④自宅退院を目指し多職種がシームレスに関わった1症例

市川万紀子（佐久総合病院佐久医療センターリハビリテーション科作業療法士）

市川美香（佐久総合病院佐久医療センター地域ケア科理学療法士）

⑤訪問リハビリで経験した在宅でのがんリハビリテーション

山田友春（鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 訪問リハビリテーション科理学療法士）

特別講演16:00～17:00

「がん医療におけるリハビリテーションの役割」

座長：栗田 浩（信州大学医学部歯科口腔外科学教室教授、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン支持療法委員会委員）

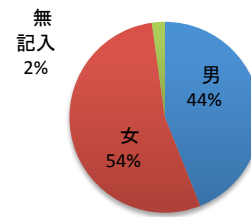
演者：辻 哲也（慶応義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 准教授）



## アンケート結果(回答数91名/111人 回収率82%)

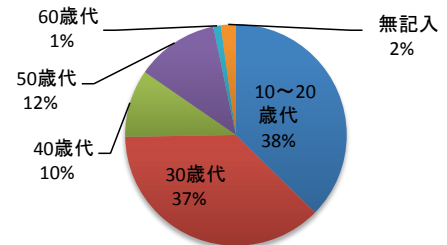
### I.性別

	人
男	40
女	49
無記入	2



### II.年齢

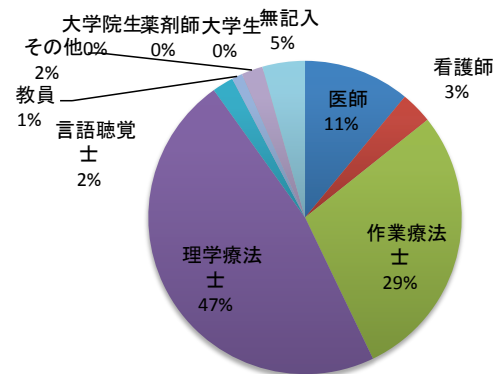
	人
10～20歳代	34
30歳代	34
40歳代	9
50歳代	11
60歳代	1
無記入	2



### III.職業

医師	10
看護師	3
作業療法士	26
理学療法士	43
言語聴覚士	2
薬剤師	0
教員	1
大学生	0
大学院生	0
その他	2
無記入	4

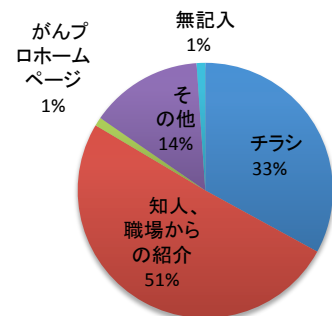
医療ソーシャルワーカー、あて師



### IV.このシンポジウムは、どのような方法で知りましたか。

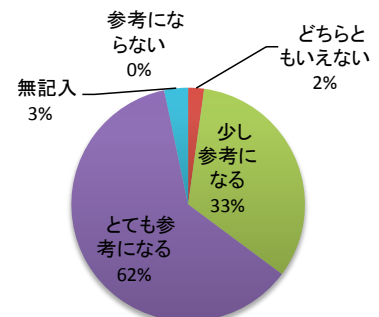
チラシ	30
知人、職場からの紹介	46
がんプロホームページ	1
その他	13
無記入	1

ACSUメール、院内メール、信大web、医療タイムズ、学内掲示板、職場へのフライヤー、長野県理学療法士協会のホームページ、シンポジストとして



### V.本日のシンポジウムは、今後の参考になりますか。

参考にならない	0
どちらともいえない	2
少し参考になる	30
とても参考になる	56
無記入	3



### VI.シンポジウムに関する感想、ご意見をご自由にお書きください。

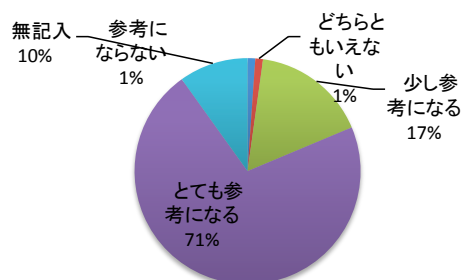
- ・各病院での症例報告や取り組みなどが聞けて良かったです。
- ・実際の症例通りの発表であり、参考になりました。
- ・様々な分野でのリハの関わりが参考になった。
- ・がんリハについての現状を少し学ぶことができました。ありがとうございました。

- ・がんリハの取り組みなど勉強になった。
- ・県内でのがんに関係するリハビリの関わりをお聞きでき、感謝致します。
- ・周術期・骨転移に関してのリハビリテーションのシンポジウム、また辻先生の講演が聞けてよかった。
- ・がんリハビリに対して勉強不足だったので、非常に参考になった。
- ・積極的な意見を交す場になっていて、とても勉強になりました。
- ・骨転移に対するリハビリの症例、運動量やどこまで負荷をかけるのかは痛みの評価が大切であることを学びました。
- ・病院と地域の連携が大切だと思いましたが、コーディネートすることが大変だと思い、円滑にすすめるにはどうすればよいかもう少し踏み込めればよいなと思いました。
- ・自宅退院を目指し多職種がシームレスに関わられた1症例の発表が大変参考になりました。  
小児がんの患者さんの場合も、自宅での終末期を迎えることが多くなってきた中、成人領域のような多職種の連携が小児領域でも行うことができるように強く感じました。
- ・様々な施設の対応や考えを聞ける機会となり良かった。
- ・セラピストの具体的な関わり方の事例を学ぶことができ、今後のリハの参考になりました。
- ・チームや多職種での関わり方の大切さを感じました。
- ・有用な機会だと思います。
- ・初回としてはこれで良いのでは。今後の継続を希望します。
- ・この“がん”だからこの部位だから関係ないため、その人に合ったというのがベースになる。周術期～在宅・緩和まで病院として関わられるのはうらやましく思いました。
- ・現場の生の声を聞くことができて良かった。
- ・周術期の話や、骨転移の患者様に対し、実際どのようにリハを進めているのか、どのように連携をとっているのか聞きたかった。
- ・現状、取り組みに関する報告が聞くことができて良かったです。
- ・1、2、3は病院内で完結し、退院後の話がなかった。5は医療機関からの引き継ぎがなかった。状況から、4は病院と在宅がつながっているが同施設の中だから当然。支持療法のテーマだったので、リハのつながりは必要ではなかったか？
- ・癌患者さんに対するリハを行いたいと考えているが、看護師が中心となっている。知識・技術を高めて対応したい。
- ・各々の取り組みをきくことができ良かった。具体的な症例や取り組み状況を知ることができた。
- ・他の施設のスタッフのみなさんも、同じような悩みを抱えていることが分かった。長野県という地域で一緒にがんばっていきたいと感じた。
- ・佐久病院の取り組みが、大変参考となった。
- ・それぞれの時期や立場からの経験をお聞きすることができてとても参考になりました。
- ・急性期から維持期まで、それぞれの立場からの話が聞けてよかった。
- ・連携についての大切さがとてもよくわかりました。
- ・入院～在宅までのいろいろな経験など知れてよかった。
- ・他病院のシステムや方法等が分かって良かったです。
- ・様々な視点、介入からの発表が聞け、参考になった。
- ・とても良い機会をいただきました。
- ・リハ職のシンポジウムらしいシンポジウムだったと思います。在宅医を中心として行う在宅チームでありたい。  
その為にもHP主治医からの連携が欲しい。
- ・リハスタッフの色々な考え方が聞けて良かったです。
- ・特許している方々のお話、とても参考になりました。病院・在宅等他職種連携の重要性を痛感しました。また、  
デイケアや施設での関わり方・連携についても学びたいと感じました。
- ・ガンの予後や骨転移について、もっと知りたくくなりました。
- ・私も頑張ろうと思いました。
- ・訪問リハに関わっているのでも、実際にどのようにがんの利用者さまに関わっているか学ばせていただきました。
- ・周術期から緩和までの各時期の症例を紹介して頂き、大変参考になった。がんのリハビリテーションはゴール設定が難しく、特に緩和期ではどのような最期を迎えるかを患者本人も医療者も想像できないことがあると思いますが、最期まで希望やモチベーションを保てるような関わりができるといいなと感じた。
- ・各病院での取り組み方など参考になりました。
- ・他施設での取り組みや具体的な症例が提示されており、参考になった。
- ・いろいろな立場でのかかわり方を具体的に知ることができました。
- ・長野県内のがんリハビリに関する状況を知ることができた。
- ・現場で働くセラピストの声、症例紹介等多く、非常に参考になりました。
- ・在宅でのがんリハについて等、普段なかなか知ることのないことを学ばせていただく良い機会になりました。
- ・他院でのアプローチetc.について知ることができ良い機会だった。
- ・他院での取り組みを知ることができて良かった。
- ・地域のリハ関係者がこんなに集まるとは思っていなかったのでも、注目度が高いと感じた。

- ・個人情報の関係もあり難しいかもしれないが、資料があればさらに分かりやすいものになったと感じます。
- ・資料がほしかった。
- ・滑舌や早口であったりして、聞き取れなかったりわからない部分もあったので、お話し頂いた資料など、全員に配布といたなくても、手に出来るような手段がありましたらありがたいです。
- ・スライドのコピー(配布資料)が欲しかった。
- ・左前のプログラムが小さくて見えない。配布の紙があればいいかと。

#### VII. 本日の特別講義は、今後の参考になりますか。

参考にならない	1
どちらともいえない	1
少し参考になる	15
とても参考になる	65
無記入	9



#### VIII. 特別講演に関する感想、ご意見をご自由にお書きください。

- ・とても分かりやすい講義内容や資料で勉強になりました。
- ・がんのリハの目的や注意点の理解を深めることができよかったです。
- ・現在のがんリハを取り巻く取り組み等を知ることが出来てよかった。
- ・大変わかりやすいご講演で、病期別の特徴が分かりました。
- ・治療前～維持期、ターミナルの関わり方、とても参考になった。
- ・参考になった。
- ・がんリハに関する最新の情報、考え方を教えて頂き、ありがとうございました。
- ・がんの病期別のリハアプローチ、役割がきけてよかったです。
- ・専門的に知識に触れることができてよかった。
- ・多職種との連携が大事だと感じました。
- ・大変参考になりました。
- ・既に聞いた内容の部分もありましたが、参考になる部分も多くありました。骨転移について主科の先生に聞いて欲しかったです。
- ・日本人は宗教がなくてそこは少し辛いと考えています。
- ・特別講演の内容を長野県内におけるリハの向上に活かしていければと考えています。
- ・がんリハの研修会にもでているため復習にもなり勉強になった。様々なことに対応・実践できる内容で勉強になった。
- ・とてもわかりやすかった。
- ・院内でもがんのリハビリということ最近発表しましたが、辻先生の書籍を参考にさせて頂きました。実際に聞いて良かったです。
- ・がんのリハビリの全体像を知ることができた。
- ・終末期で働く立場として、リハの目的を改めて整理することができました。
- ・基礎的なところから臨床的なところまで、幅広く知識を得るきっかけとさせて頂きました。実際関わる利用者の背景など(サルコペニアetc.)知っていれば、もっと違った関わり方が出来たと悔やまれる面もありました。とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・がんリハの介入について、流れで聞いてよかった。
- ・がんリハについて概要がよくわかりました。
- ・今までのリハだと機能訓練ありきという考えだったが、QOLや患者などの状態に応じた対応などサポート中心となることが新しい。
- ・がんリハの基礎等、再確認できて良かったです。
- ・基礎的なことから実践的なことまで聞くことができ、今後の参考としたい。
- ・チーム連携、お互いの信頼関係がHP内のチームで得ること。その情報を在宅チームに伝わる術、伝えるすが不足していると思う。→ かかりつけ医がHP内のC.Cに入ること。
- ・リハビリの重要性、対応等とても詳しくお話しいただきありがとうございました。職場での患者様への介入、チームの重要性を伝えたいと感じました。
- ・技術、知識を得る手段もお話しだけでなく細かく記載されていて有難いです。
- ・資料の提示もふくめ、非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・具体的にどんなことをやっていけばいいか提示があって参考になりました。
- ・大変わかりやすかったです。
- ・がんのリハビリテーションの全体像についてわかりやすくとめて下さり、とても勉強になりました。今後活かしていけるとよいと思いました。

- ・介入リスクの高いがん患者へのリハビリテーションだが、ADLやQOLを維持するために非常に重要な役割を持っていると感じています。しかし実際、本講演で述べられていたようなチームでのリスク管理・アプローチが私の施設では行われていないと思われます。多職種で関わることで、患者へのベネフィットをさらに高められるように病院へ情報を持ち帰りたいと思う。
- ・チーム医療、チームケアの重要性を再認識する機会になりました。
- ・詳しく説明していただいたことで現在のがんリハビリテーションについて知ることができました。
- ・幅広くがんリハビリテーションの情報を知る機会となりました。
- ・各期における身体状況、リハの介入のポイントをご説明頂き、速、治療につながると感じました。
- ・リスク管理を行いながらリハ行う必要性を学びました。
- ・とても参考になりました。たくさんの知識をありがとうございました。
- ・早口である。内容をしぼってもらった方が良いのでは。
- ・維持期について心理的サポート(支持療法)についてもっと知りたいと思われました。
- ・もう少し特別講演の時間が長いと、より深い話も聞けるのではないかと感じた。
- ・時間が短かった。より深い内容の話が聞きたかった。
- ・1時間という時間がとても短く感じられた。内容がとても濃いものなのでもう少し時間を割いてもらえたらと思う。
- ・もう少し時間があっても良かったのではないかと。
- ・都合により聴講できませんでした。すみません。

**IX. 今後、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの企画等の希望や期待することなど、自由に意見をお書きください。**

- ・リンパ浮腫に対するリハについての勉強会を開催して頂きたい。
- ・私はあて師として訪問マッサージを行っています。自分にもっとできる事はないかという思いで参加しました。ありがとうございました。
- ・今度も情報を頂けると幸いです。
- ・終末期にはリハビリが断られてしまうことが多いと感じていますが、終末期まで関わるために、リハビリの必要性の確立、ケアの考え方、技術の習得を希望します。
- ・もっと回数を多くしてほしいです。
- ・定期的な開催を期待しています。
- ・CAREERを受講しないとがんリハは算定できないのですが、当院では、有期雇用の職員が多く、受講しても退職され、複数療法で算定することができないという実態もあり、がんリハ算定はなかなか難しいです。今後講習を受講できる機会が増えるということなので、よかったです。
- ・多職種間の連携をより高めるために、今回のように医師、看護師、薬剤師だけでなく、より多くの職種の方々の発表を共有できる企画を今後も企画していただければと考えています。よろしくお願いします。
- ・がんリハに対する医師の認識の向上がはかれるとよいと思います。
- ・今後も情報交換できる場の企画をお願いします。
- ・がんリハの研修を長野県内で開催して欲しい。
- ・多くの勉強会、研修会があるといい。判断基準など、やるにあたって注意すべきことを学べるといい。
- ・実技的な基礎的な講習を行って欲しい。
- ・活動報告、意見交換していければいいです。ざっくばらんに。
- ・シンポジウムを聞いて医療と介護をつなぐこと、リハを実施する上で主治医の理解や連携も重要と感じました。ネットワーク作りを進めて頂きたいを思います。よろしくお願いします。
- ・今後も研修会etc.あれば参加させて頂きたいです。ありがとうございました。
- ・がんリハ算定できるセラピストを増やしたい。そのための研修会を開催してほしい。
- ・今回のような導入的な内容が参考になった。
- ・現状では、病院は病院、かかりつけはかかりつけ、リハはリハで連携不足を強く感じます。特に施設などは孤立。もっと大きくがん医療の勉強会等の開催をお願いしたいです。
- ・定期的勉強機会を作ってほしいです。
- ・がん医療人(リハビリ担当者)育成は重要とチーム医療の重要性をもっと進めるべき。
- ・リンパ浮腫に対する治療についての研修(実技研修)を開いてほしい。施設基準等の関係で、がんリハを算定できない施設では乳がんの術前後などの介入をどうしているのか、他施設の情報を知りたい。今後もより多くの研修を開いていただければと思います。